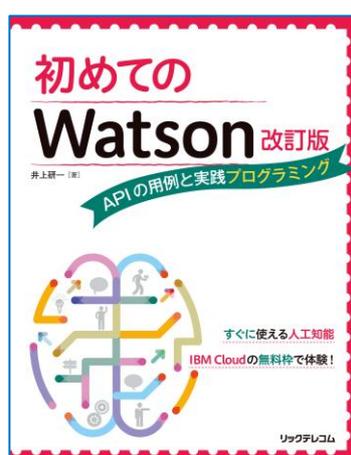


# 『初めての Watson 改訂版』

## 読者フォローアップ情報



株式会社リックテレコム／書籍出版部

(最終情報更新日：2018年8月17日)

---

### [INDEX]

#### 2018年4月1日時点の IBM Watson 仕様変更について

(著者：井上 研一氏からのフォロー情報)

[変更点-1] IBM Cloud における Watson サービスの提供状況

[変更点-2] NLU の日本語対応状況について <第4章 第4節>

[変更点-3] Watson Assistant (旧 Conversation) <第4章第6節>

#### 2018年8月15日の IBM Watson 仕様変更について

(著者：井上 研一氏からのフォロー情報)

## 2018年4月1日時点のIBM Watson 仕様変更について

### はじめに

拙著「初めての Watson 改訂版」をお買い上げいただき、ありがとうございます。同書は2018年1月1日時点で知りうる情報をもとに執筆しましたが、2018年3月中旬にIBM Watsonの仕様変更があり、一部の記載が現状にそぐわないものとなっています。本ドキュメントは、その変更状況を明らかにし、齟齬が生じているものについて整理し、2018年4月1日時点での最新情報を提供するものです。 2018年4月 井上 研一

### [変更点-1] IBM Cloud における Watson サービスの提供状況 <全般>

2018年4月1日現在、IBM Cloud では下記の Watson サービスが提供されています。(赤字が今回の変更点)

#### <ライトアカウントに対応したサービス>

- Watson Assistant (チャットボットなどで会話の制御を行う)
  - Watson Assistant は、Conversation から名称変更されたものです。
- Language Translator (文章の翻訳)
- Natural Language Understanding (文章から重要な単語などを抽出する)
- Personality Insights (文章からそれを書いた人の性格を分析する)
- Speech To Text (音声をテキストに変換する)
- Text To Speech (テキストを音声に変換する)
- Tone Analyzer (文章からそれを書いた人の感情を予測する)
- Visual Recognition (画像認識)
- Discovery (文書を蓄積し自然言語などで検索する)
- Knowledge Catalog (プライベートデータのカatalog)
  - Knowledge Catalog は2018年3月16日より提供開始されました。
- Machine Learning (機械学習の実行環境)
  - IBM Cloud Catalog上での分類が「データ&分析」から「Watson」に変更されました。
- Watson Studio (機械学習の開発環境)
  - IBM Data Science Experience の名称が Watson Studio に変更され、IBM Cloud Catalog上での分類が「データ&分析」から「Watson」に変更されました。

#### <ライトアカウントに対応していないサービス>

- Natural Language Classifier (文章をあらかじめ学習させたラベルで分類する)
- Knowledge Studio (Natural Language Understanding や Discovery などと組み合わせて使用し、文章からいかに単語などを抽出するかを学習させる)

[<Indexに戻る>](#)

## [変更点-2] NLU の日本語対応状況について <第 4 章 第 4 節>

Natural Language Understanding (NLU) の日本語対応状況が、下記の表 2-2 のように、標準サポートに Categories と Concepts の 2 つが追加されました。

表 2-1 変更前<2018 年 1 月 1 日時点>

| 標準サポート   | カスタムモデルサポート           |
|----------|-----------------------|
| Metadata | Entities<br>Relations |

表 2-2 変更後<2018 年 3 月末現在>

| 標準サポート          | カスタムモデルサポート |
|-----------------|-------------|
| Metadata        | Entities    |
| Categories (追加) | Relations   |
| Concepts (追加)   |             |

この追加により、例えば日本 IBM の公式サイト ([www.ibm.com/ja-jp/](http://www.ibm.com/ja-jp/)) を指定して Curl コマンドを実行すると、下記のような結果が出力されます。

```
curl -G -u "{username}":"{password}" -d "version=2017-02-27" -d "url=www.ibm.com/jp-ja/" -d  
"features=categories,concepts"  
"https://gateway.watsonplatform.net/natural-language-understanding/api/v1/analyze"
```

```
{  
  "usage": {  
    "text_units": 1,  
    "text_characters": 2275,  
    "features": 2  
  },  
  "retrieved_url": "https://www.ibm.com/jp-ja/",  
  "language": "ja",  
  "concepts": [  
    {  
      "text": "コンピュータ",  
      "relevance": 0.834546,  
      "dbpedia_resource": "http://ja.dbpedia.org/resource/コンピュータ"  
    },  
    {  
      "text": "YouTube",  
      "relevance": 0.787375,  
      "dbpedia_resource": "http://ja.dbpedia.org/resource/YouTube"  
    },  
    {  
      "text": "クラウドコンピューティング",  
      "relevance": 0.778382,  
      "dbpedia_resource": "http://ja.dbpedia.org/resource/クラウドコンピューティング"  
    }  
  ],  
  "categories": [  
    {  
      "score": 0.493285,  
      "label": "/technology and computing"  
    }  
  ]  
}
```

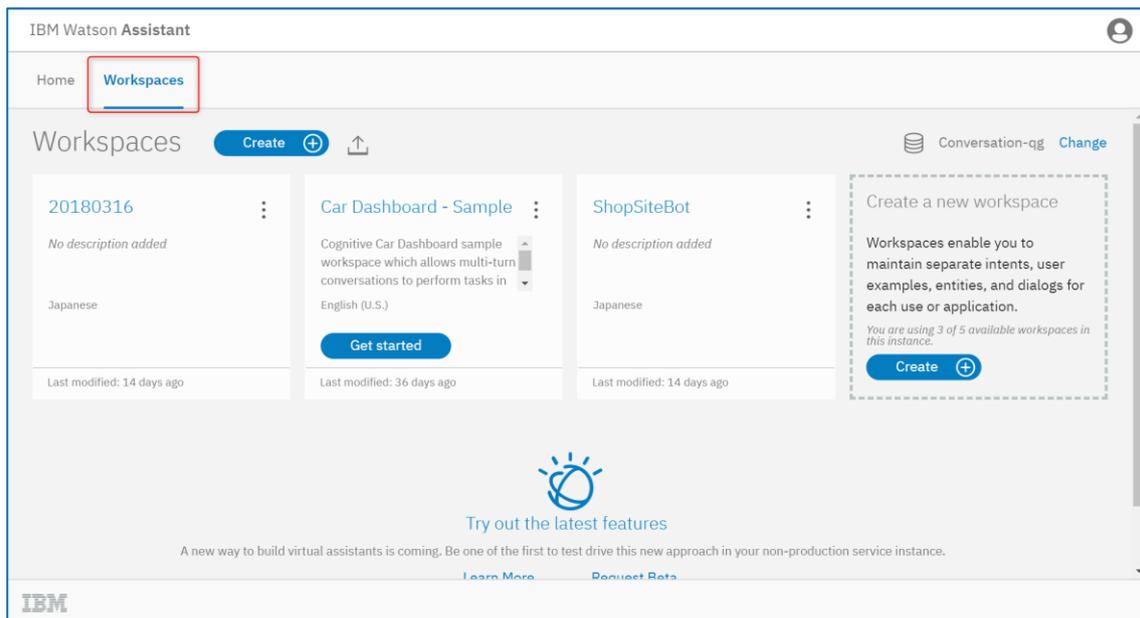
表 2-3

| 機能         | 抽出結果  |
|------------|---|
| Categories | /technology and computing<br>/business and industrial<br>/society/crime/personal offense/homicide |
| Concepts   | コンピュータ<br>YouTube<br>クラウドコンピューティング  |

[<Index に戻る>](#)

### [変更点-3] Watson Assistant (旧 Conversation) <第 4 章第 6 節>

「Conversation」は、「**Watson Assistant**」に名称が変更されました。ただし、機能や Workspace の画面構成は変更前と同様です。



Watson Assistant のインスタンスを作成し、Launch tool ボタンをクリックすると、Watson Assistant の画面が開きます。ここから、Workspaces リンクをクリックすると、以前と同様の画面が表示されます。

[<Index に戻る>](#)

## 2018年8月15日時点の IBM Watson 仕様変更について

Watson の API 仕様、特に apikey に関する部分に、重大な変更が加えられました。その影響により、本書記載のソースコード、およびダウンロードサービスを提供中の当該ソースコードでは、プログラムが正しく動作しないことが分かりました。

変更内容の詳細と本書への影響範囲については只今（2018年8月）、著者自ら調査中です。確かな事が判り次第、本資料（フォローアップ情報）に掲載いたしますので暫くお待ちください。

なお、現時点では少なくとも、本書 P.119 「リスト 6-5」のコードはエラーとなります。また、本書のサンプル開発には Monaca（Cordova）の File Transfer プラグインが絡んでいるため、ソースコードには大きな修正を生じる可能性があります。

変更後の API 仕様は、IBM の下記英文サイトに公開されています。

<https://www.ibm.com/watson/developercloud/visual-recognition/api/v3/curl.html?curl#detect-faces>

[<Index に戻る>](#)

以上